



# 農事普及だより

(9月号 平成27年9月1日～9月30日)

〔発行〕鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課  
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店  
西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室  
〔編集〕西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



## \*天候\*

(平成27年8月25日 仙台管区気象台発表 東北地方3ヶ月予報より)  
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。



## \*水稻\*

平年より刈取時期が早くなることが予想されます。  
ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、適期刈取りに努めましょう。

### 1. 出穂の状況

今年の管内全体の出穂最盛期(50%になった日)は8月3日で平年より3日早くかった。

(表1) 市町別の出穂状況

市町	出穂始		出穂最盛期			出穂終	
	本年	平年	本年	平年	平年差	本年	平年
五所川原市	7/31	8/4	8/3	8/7	早4	8/6	8/11
中泊町	7/31	8/3	8/3	8/5	早2	8/6	8/10
板柳町	7/31	8/5	8/3	8/7	早4	8/6	8/10
鶴田町	7/31	8/3	8/3	8/6	早3	8/6	8/10
つがる市	7/31	8/3	8/2	8/6	早4	8/6	8/9
鰐ヶ沢町	7/30	8/2	8/2	8/5	早3	8/7	8/10
深浦町	7/30	7/31	8/3	8/5	早2	8/8	8/10
西北全体	7/31	8/3	8/3	8/6	早3	8/6	8/10

注) 出穂始は5%、出穂最盛期は50%、出穂終は95%に達した月日である。

### 2. 刈取時期の判断方法

刈取りが早すぎると未熟粒の混入が多くなり、刈取りが遅れると、茶米や奇形粒、胴割粒などの被害粒が増加する。

登熟の進みには、個人差・地域間差があるので、表2、表3を目安に、ほ場ごとの登熟の進み具合をよく確認して、総合的に刈取時期を判断する。

(表2) 出穂後の日数及び積算温度からみた刈取適期の期間

まっしぐら	○出穂後積算気温：960～1,200℃
つがるロマン	○出穂後積算気温：960～1,150℃

(表3) ほ場ごとの刈取開始期の目安

○粉の黄化程度	○ほ場全体の粉が、90%程度黄化した時期
○枝梗の黄化程度	○枝梗の2/3程度が黄化した時期
○青未熟粒の混入割合	○青未熟粒の混入率(1.9mm選別、重量比)が、10%程度まで減少した時期
○粉水分	○25～26%程度まで減少した時期

### 〈語句説明〉

・出穂後積算気温：出穂期の翌日から毎日の平均気温を合計した値

### 3. 積算気温による刈取時期の予測(8月18日現在)

主な出穂日ごとにみた出穂後の積算気温の到達予想日は表4のとおりである。  
7月31日に出穂日になった「まっしぐら」は、刈取早限(960℃)が9月11日、  
晩限(1,200℃)が9月23日となっている。

8月6日に出穂日になった「つがるロマン」は、刈取早限(960℃)が9月19日、  
晩限(1,150℃)が9月30日となっている。

### (表4) 出穂日と積算気温の到達予想日(8月18日現在)

出穂日	960℃	1,150℃	1,200℃
7月31日	9月11日(42)	9月21日(52)	9月23日(54)
8月3日	9月14日(42)	9月25日(53)	9月28日(56)
8月6日	9月19日(44)	9月30日(55)	10月3日(58)

注1) 五所川原アメダス値を使用、8月17日までは本年値を、それ以降は平年値を用いた。

注2) ( )内は、出穂後の日数。

注3) 気温から見た目安であり、刈取時期は、水田の状況を見ながら、総合的に判断する。

### イ 除袋時の注意

・外袋をはぐときは、果実に密着している葉を摘み取る。その後果実の色が黄色みがかった時、あるいは薄い縞が入った時(晴れた日が3～5日続いた後)に内袋をはぐ。

・二度はぎ用二重袋の内袋をはぐ場合又は一度はぎ用二重袋をはぐ場合は、日焼けを防ぐため、曇天日又は晴天日の10時～14時(果面の表面温度が高くなる日中)とする。

### ウ 摘葉剤「ジョンカラーロ」を利用する場合

・「ふじ」のみを対象とし、収穫40～50日前(9月中旬頃)に500倍液を10a当たり400～700g散布する。展着剤ラボー1,000倍を加えると効果が高まり、安定する。

・散布後40日間は収穫できないので注意する。

・散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分だったり、極端な高温に合うと過剰落葉となるので、できるだけ温暖(平均気温：17～19℃)で好天が予想される時に散布する。

### 3. 病害虫防除

#### (1) すず斑病・すず点病対策

例年発生の多い園地や9月中旬に長雨が見込まれる場合は、中・晚生種の無袋果を対象に、「9月15日頃」にオーソサイト水和剤800倍、ストライド顆粒水和剤1,500倍、トップジンM水和剤1,500倍、ベンレート水和剤3,000倍のいずれかを果実に十分にかかるように特別散布する。

なお、早生種に飛散しないよう注意する。

#### (2) 腐らん病対策

夏場は病斑の拡大が一時停止しているが、降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生拡大につながるので、胴腐らんの治療部を再点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

#### (3) モモシンクイガ対策

被害果は見つけ次第摘み取り、7日以上の水漬けなど適切な処置をする。また、もも、なし、日本もも、ブルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

#### (4) リンゴコカクモンハマキ対策

9月以降、第2世代幼虫の発生が多い所では、フェロモントラップを利用して適期にサムコルフロアブル10又はフェニックス顆粒水和剤を散布する。また、果実に接触している葉を摘み取り、果実被害の軽減に努める。

### 4. 風水害対策

#### (1) 事前対策

台風等の気象情報に注意するとともに、防風網や支柱などを再度点検し、補強や取替えを行う。特に、幹などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害等を受けている枝や樹、幼木に対しては念入りに行う。

#### (2) 事後対策

ア 倒木した場合は、早めに起こして支柱で支える。

イ 枝が裂けた場合、回復可能ものは、その先の枝量を減らして、ロープで固く縛るか、かすがいなどで接着する。

ウ 浸水した園地では、速やかに排水する。

エ 冠水した場合、有袋果は直ちに除袋する。また、果実や葉に付着した泥は清水で洗い落とす。

### －樹上選果推進期間(8月下旬～収穫期)－

美味しいりんごを届けよう！ 今年もやります！ 樹上選果と「すぐりもぎ」！

### ストップ！ 農作業事故

### 秋の農作業安全運動実施中！

期間：平成27年8月15日～10月31日

※農薬はりんご園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



# \*ぶどう\*

適正な管理で、消費者に美味しいぶどうを届けましょう！

## 1. 収穫時期の判定

### (1) スチューベン

ア 着色始めは8月18日（鶴田町境）で平年より5日早かった。

イ 収穫は、果皮の着色だけで判断せず、糖度（18度以上）を測定するなど十分味がのったものを収穫する。

### (2) その他の品種

キャンベル・アーリーは糖度が上からなくても良く着色し、また、黄色品種のブイヤガラ、ポートランドは果皮色の変化が少ないため外観上から収穫時期を判定するのは難しい。

収穫に当たっては、必ず糖度を測定し、味を確かめる。

### ○平年の収穫時期と収穫時の目安

品種	収穫時期	果皮色	糖度(%)
ポートラント	9月上旬	黄緑	14
キャンベル・アーリー	9月中旬	紫黒	14
サンルージュ	9月中旬	紫赤～赤褐	17
ブイヤガラ	9月下旬	黄白	15
スチューベン	10月上旬	紫黒	18

## 2. 収穫時の留意事項

- (1) 収穫は朝夕の果実温度が低い時間に行う。
- (2) 完熟果でも降雨があった直後は糖度が低下するほか、輸送中の腐敗が多くなるので、なるべく晴天時に収穫する。
- (3) 収穫した果実は病害虫の被害果や未熟果、小粒果等を除き、房の大きさや着色程度、品質等により選別する。

## 3. スチューベンの灰色かび病対策

- (1) 長期貯蔵向けのスチューベンを対象に「パスワード」顆粒水和剤1,500倍を8月下旬～9月上旬に10a当たり250g散布する。
- (2) 単用で使用するとともに、果面汚染を防ぐため展着剤は使用しない。
- (3) 使用時期は、収穫14日前まである。
- (4) 本剤散布によって軽微な薬害を生ずる場合がある。

※農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。



# \*野菜\*

## トマト

気温の低下に伴い裂果の発生が多くなるので、追肥は控え保溫に努めましょう。

## 1. 裂果対策

- (1) 気温の低下とともに裂果が多くなるので、最終果房のトマトーン処理後は、追肥を控えめに行うが、最終果房の着果後30日間は定期的にかん水する。ただし、かん水量は常に一定（1.5L/株）とし、かん水間隔を長めにする。
- (2) 夜温が15℃を下回る場合は保溫に努める。

## 2. エスレル処理

- (1) 10月中旬以降は温度が急激に低下し着色が進まないため、9月下旬から白熟期になった果房ごとにエスレル10を散布して着色を促進させる。

散布時期	倍数	散布液量	散布回数
9月25日～10月5日	300倍	5mL/1果房	1果房につき1回

- (2) 敷設時や散布後2～3日間は、ハウス内の気温を30℃以上にしないよう注意する。

## 3. 病害虫防除

灰色かび病、疫病、葉かび病、すすかび病、うどんこ病、タバコカ類、オニシソコナジラミの防除を行う。

# アスパラ菜（ホータムポエム）

収穫時期を考えて計画的には種しましょう。

## 1. 作型

は種期	定植期	収穫始
9月10日頃	10月上旬	12月中旬～
10月20日頃	11月中旬	2月中旬～

## 2. 育苗

- (1) 床土には市販の育苗用土等を用い、72～200穴のセルトレイには種する。
- (2) 覆土は5ミリ程度とし、発芽までは15～25℃で管理する。
- (3) 育苗期間はセルトレイの大きさにより異なるが、20～25日程度とし、老化苗にならないように注意する。

# \*大豆\*

病害虫防除をしっかり行いましょう。

## 1. 病害虫防除

9月上旬までに、紫斑病、マメシンクイガの防除を行う。

## 2. その他の管理

- (1) ほ場の満水で収穫作業に支障がないよう、溝切りなどの排水対策を行う。
- (2) 汚粒の原因となる、わい化病株や雑草の抜取りを収穫前までに行う。

# \*小麦\*

ほ場整備、排水対策をしっかり行いましょう。

## 1. ほ場整備

転作田では、雪解けが早く排水が良いほ場を選び、明きよや弾丸暗きよを施工し、融雪水排水対策を行う。

は種精度、出芽率、除草剤の効果向上のため、ロータリーで碎土して、丁寧に整地する。

## 2. 施肥

基肥は肥料成分で、10a当たり窒素7～8kg、リン酸12～15kg、カリ9～10kgを基準に、地力、連作年数、前作を考慮して増減する。

また、土壤pH6.0以下では生育が悪くなるので石灰資材を施用し土壤酸度を矯正する。特に転換畠では積極的に行う。

## 3. 種子消毒

雪腐病対策として、種子消毒を行う。薬剤は前年の雪腐病発生状況に合わせて選択する。

## 4. は種期

は種適期は9月15～25日であり、は種量はドリル播きで10a当たり8～10kgを基準に、は種時期、地力に合わせて増減する。

## 5. 雜草防除

- ・除草剤は発生する雑草の種類、生育に合わせて、効果が高まるように使用する。
- ・土壤処理剤は、碎土が荒く、土壤水分が少ないと効果が劣る。
- ・茎葉処理剤は、雑草の種類、発生状況に合わせて使用する。

# \*花き\*

温度管理を徹底し、高品質な花きの生産に努めましょう。

## キク

## 1. 今後の作業

- (1) 夏秋ギクの苗床への伏込みは、10月下旬までに日当たりと排水の良いビニールハウス等に行う。苗床は伏込みの2週間くらい前に、1a当たり完熟堆肥250～300kg、基肥としてN・P・Kを各0.5～1.0kg程度施用する。
- (2) 秋ギク「神馬」の11月出荷栽培では、消灯前から温度を少しづつ上げていき、消灯から発蓄まで夜温18～20℃を確保すると開花が揃う。消灯後45～55日で開花するので、出荷時期に合わせて消灯日を決める。また、品質向上のために再電照を行うといい。

## 2. 病害虫防除

白さび病、アザミウマ類、ハダニ類、ヤガ類等の発生に注意し、適期に防除する。

## トマトコギキヨウ

## 1. 今後の作業

- (1) 抑制作型では、日中25℃を超えないよう換気に努め、夜温が13℃を下回るようになったら、ハウスを閉めて保温を開始する。発蓄期以降は、固く仕上げるため、かん水を控えめにする。
- (2) 越冬作型では、9月中旬までには種を行い、11月上旬頃までに定植できるようにする。発芽までは、20～25℃、発芽後は15℃前後を目標に管理し、種子が乾燥しないように注意する。

## 2. 病害虫防除

灰色かび病、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

○安心な農産物生産のため、農薬使用状況を必ず記帳しましょう。

○農薬使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。

○短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農薬は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。

## 【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター「豊明館」となり

午前9時から午後5時、☎ 22-2111（役場産業観光課）

## わらの焼却はやめましょう！

「農作物の被害防止のために使用している爆音機に関する苦情が増えておりまます。やむを得ず爆音機を使用する場合は作動時間を朝6時以降とし、爆音の音量を必要最小限にするなど周辺住民の生活環境に配慮してください。」

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>